



高橋余一の「生活絵巻」



上の絵に書かれた文章

上段

初夏の浅瀬にてんからを流す
上る小鮎や
白ハエが獲れる
種類 菜種
蚊頭などく
(資料三品、酒向両氏)

下段

(はやめが静)
ほつろくの下で
罾網を五月から
六月にかけて張って
鱒魚をやった

28 魚獲り

夏、川は、泳いだり魚獲りをしたりする子どもの絶好の遊び場でした。

生活絵巻には、竹竿に糸をつけた手作りの釣り具で、てんから釣りをしている様子が描かれています。

釣り竿を川底に刺して流れに任せて魚を待ちます。文中にある「菜種」や「蚊頭」は、毛鉤の種類のことです。毛や重りの色がさまざまで、それぞれ名前が付きしました。また、ウエという竹で円形に細長く編んだ漁具を川の中に沈め、魚やカニ、ウナギなどを獲りました。夕方にしかけておき、朝方見に行くと掛かっていました。

その他、川や田んぼの水の落ちるところで「かえどり」をしました。石や泥でせきを作って、魚が逃げないようにし、水をバケツでくみ出して小魚やドジョウ、エビなどを捕まえました。「獲る」ということが何より楽しい遊びであり、そこには豊かな自然がありました。

川へ水くみに行き、その水で風呂を沸かすと、ときどき湯船にメダカが浮いていることがあったそうです。